

令和8年度第1回大学等の質保証人材育成セミナー

質保証を「動かす」仕組みを考える

ー 英仏の実践から学ぶ、対話・データ・改善のつなぎ方ー

大学改革支援・学位授与機構

1. はじめに

大学に内部質保証の仕組みが整備されていても、それだけで教育の質が自動的に高まるわけではありません。方針やデータが存在していても、何のためにこれを行っているのか、どのようにしていきたいのか、という内部質保証を進める意味や意義が共有されていなければ、自己点検・評価は「確認作業」にとどまり、改善の力になりにくいからです。

本セミナーでは、英国の2大学におけるIQA（Internal Quality Assurance：内部質保証）の実践事例、即ち、大学内部で質保証・質向上を実際に動かしている仕組みを取り上げ、日本の大学で応用可能な要素を考えます。

そのために英国の高等教育が置かれている状況と質保証制度（OfS（Office for Students：学生局）のリスクベースモニタリングやTEF（Teaching Excellence Framework：教育の卓越性を段階的に評価する制度）等）を概観したうえで、2大学を事例にどのような視点、考え方でIQAを進めているのか、ということについて日本の文脈に置き換えながら解説を進めていきたいと考えています。あわせてフランスにおける近年の高等教育制度やその質保証に関する変革にも触れることで、2か国の質保証（QA）の動きを踏まえながら自大学の状況を点検する機会となれば、と考えています。

なお、当機構では令和8年10月1日に、英国・フランスの質保証機関の方々をお招きし、両国が取り組んできた質保証に関する課題や対応を共有いただくとともに、日本の大学評価・質保証の今後について議論する「大学質保証フォーラム」を開催します。本セミナーにご参加いただくことで、フォーラムの議論をより深くご理解いただき、多くの知見をお持ち帰りいただけると考えています。

2. 今回のセミナーの達成目標

本セミナーを通じて、参加者が次のことをできるようになることを目指します。

- 英国・フランスの制度と実践を踏まえ、質保証を教育の質向上につなげる基本的な考え方を理解する。
- 対話・データ・改善のつなぎ方の観点から、自大学の内部質保証の強みとボトルネックを整理する。
- 海外の実践をそのまま模倣するのではなく、日本の制度や組織文化に即した改善策を構想する。

※演習編まで参加することで、特に第2・第3の目標について具体的な検討を深めます。講義編のみでも、各目標に関する基本的な内容を扱います。

3. 開催日時・会場

日 時：令和8年9月16日（水）講義編 13:00～14:50 演習編 15:00～16:30

形 式：演習編に参加いただく方は対面、講義編のみご参加の方はオンラインとなります。

会 場：大学改革支援・学位授与機構 竹橋オフィス 1012 大会議室

（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター10階）

4. 対象者

高等教育機関の教職員、認証評価機関関係者、その他大学の質保証・質向上に関心を有する方

なお、対面参加は以下の方を対象とします。

- ・ 自大学の内部質保証、自己点検・評価、教育改善等の運用に実務として関わり、自大学の取組や課題を参加者間で具体的に共有・検討できる方
- ・ 事前ワークシートに自大学の内部質保証・質向上の取組、現在の課題又は比較的うまく機能している点を記入し、当日はその内容を短時間で説明するとともに、他の参加者との意見交換に主体的に参加できる方

※ 演習編は、自大学の具体的な実践を持ち寄り、相互に検討することを重視しますので、見学や一般的な情報収集を主目的とする方ではなく、自大学の実践を題材に検討を深めたい方を対象とします。

5. 募集人数

オンライン参加：500 名

対面参加：15 名程度

※ 対面参加は、申込み開始から 2 週間（8/18 まで）は 1 大学 1 名の申込みとさせていただきます。

6. 参加費

無料

7. プログラム

13:00～13:05 趣旨説明

本セミナーのねらいと進め方について概説します。

< 講義編 >

13:05～14:20 報告・講義 英国における質保証のエッセンスとフランスの変革

「英国の大学における QA 実践と日本での応用」（50 分程度）

畠田 敏行 大学改革支援・学位授与機構 研究開発部 教授

英国の高等教育が置かれている状況、即ち、リスクベースのモニタリング、規制、大学との対話、TEF によるレーティングなど英国の高等教育制度と質保証の仕組みについて、大学の実践を理解するために必要な論点を中心にコンパクトに整理します。その後、英国の 2 大学へのインタビュー調査から得られた示唆として大学内部の対話、データの活用、教育プログラムのレビュー、改善のフォローアップ等の実践を紹介し、日本の大学においても活用可能な要素を整理します。

「フランスの経験から見る大学評価改革」(20分程度)

野田 文香 大学改革支援・学位授与機構 研究開発部 教授

フランスでは、国際競争力への危機感を背景に、高等教育機関や学位の価値を学生・雇用者・社会に伝えるための評価改革が進められてきました。その過程で、学位名称の整理、コンピテンスや卒業後の職業接続の可視化が進む一方、序列化、数値化、評価負担、大学の自律性への影響も課題となりました。本報告では、こうした改革と見直しの経緯をたどり、フランスが「何を評価するか」とともに「何のために評価するか」をどのように組み替えてきたのかを紹介します。

14:20～14:30 小休憩 質問紙記入

14:30～14:50 質疑応答

※ 質疑の状況により 15:00 まで延長する場合があります。

<演習編>

15:00～16:30 演習 日本の情勢に変換した英国の大学における質保証実践例から考える質保証・質向上の糸口(対面のみ)

英国の2大学へのインタビュー調査で得られた実践例をもとに作成したワークシートを用い、自大学の取組や課題を整理します。参加者には、可能な限り事前にワークシートへ記入いただき、当日は記入内容を順に説明していただきます。各報告について、参加者間で意見交換を行い、講師からコメントします。

会場はコの字型に配置し、10～15名程度の少人数によるゼミ形式またはグループワーク形式で進めます。自大学の具体的な実践を持ち寄り、相互に検討することを重視します。

○ 演習編に参加される方へのお願い

- ・ ワークシートは9月4日(金)までに、大学質保証ポータルに掲載します。自大学の内部質保証・質向上の取組、現在の課題又は比較的うまく機能している点を記入のうえ、ご参加ください。(大学質保証ポータル <https://niadqe.jp/event/7999/>)
- ・ 当日は、ワークシートの内容を一人ずつ短時間で説明していただきます。説明を受け、他の参加者及び講師が質問・コメントを行います。
- ・ 抽象的な制度論だけでなく、誰が、どの場で、どのような情報を用いて判断し、改善をフォローしているのかを説明できるよう準備してください。
- ・ 機密情報や個人情報を含む資料を持参する必要はありません。共有可能な範囲で、実際の運用が分かる形に整理してください。
- ・ 率直な意見交換を行うため、演習内容の録音・撮影及び発言者を特定できる形での外部共有はご遠慮ください。

8. 申込み方法・期間

申込開始 : 令和8年8月5日(水) 13:00 開始予定

対面参加締切 : 令和8年9月9日(水) 17:00 (定員に達した場合は早期に締め切ります。)

オンライン参加締切 : 令和8年9月11日(金) 17:00

申込みは、当機構「大学質保証ポータル」の開催案内ページから受け付けます。

9. 其他のご案内

- 資料、オンライン会議の接続先は、9 月 14 日（月）までに申込者へ電子メールでご案内します。
メールが届かない場合は、セミナー開催前日までに下記【問い合わせ先】までご連絡ください。
当日の朝は返信できない場合がございます。
- 広報・事業報告のため会場の写真を撮影し、大学質保証ポータル等で公表する場合があります。
人物が写り込む場合は、個人が特定されないよう留意します。
- 講義編については、後日、大学質保証ポータルでの動画及び資料の公開を検討しています。
- 本セミナーで扱う英国・フランスの制度的背景は、令和 8 年 10 月 1 日開催の「大学質保証フォーラム」の内容とも関連します。フォーラムに参加される方にとっては、当日の議論をより深く理解するための準備にもなります。

大学質保証フォーラムウェブサイト：<https://www.niad.ac.jp/consolidation/international/forum/>

※8 月中旬以降に令和 8 年度向けサイト公開及び申込受付開始

【問い合わせ先】

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 評価事業部 企画調整課 総務企画係

E-mail：hyokikaku2@niad.ac.jp